



平成 28 年度サイエンスII 文系
With 総合地球環境学研究所 (ちきゅうけん)
みんなの研究アイデアメモ 第 3 弾
2016 年 6 月 2 日(発行)



地球研の先生方の講義も残すところあとわずか。

**これまでみなさんは研究者たちのお話を聞く立場にありましたが、
いよいよ 6 月後半からはみなさんが研究者になる番です！**

**さて、5 月 12 日(木) 鎌谷かおる講師の講義「環境問題は、いつからあったのか？江戸時代の人々の暮らしを通して考えてみよう」を聞いて、生徒の皆さんはどんな研究をしたいと思ったのでしょうか？
みなさんの回答に鎌谷先生と環境教育担当の岸本がお答えします。**



Aさん

「古文書から知る江戸時代の自然災害」

・古文書を読み解いて、江戸時代の自然災害について被害状況や幕府の対応について調べ、現在における災害の予測や災害時の対応に役立てる。また、実際に現地へ赴き、当時の災害の被害を示す石碑や言い伝えについても調べ、現地の住民のその災害についての認知度も調べる。

「百姓たちの訴え」

・古文書には農村の百姓たちが年貢減免や災害時の救済を求めるものが多いが、それらを幕府はどれくらい聞き入れていたのか。百姓たちの請願書と「徳川実紀」などを比較し、幕府と百姓の関係や一揆の原因について知る。

【鎌谷先生】

江戸時代には、水害・地震・火山の噴火など、様々な自然災害がありました。当時の人々は、その被害状況や、復興への対策についてたくさんの古文書や記録を残しました。阪神淡路大震災や東北地震以降、歴史学(日本史)の分野において、過去の地震や自然災害における当時の社会状況、国家の復興対策などに関する注目が高まり、多くの研究が生み出されています。歴史学研究的関心は、現代のおかれている状況の影響をうけることが多くあるのです。また、近年は江戸時代に作られた災害の顕彰碑や石碑についても、保存運動や研究があり、私自身もその研究のお手伝いをした経験があります。

渡辺尚志『浅間山大噴火』(吉川弘文館 2003 年)は、天明3年(1783)におこった浅間山噴火を通して、自然災害に当時の国家と社会がいかに対応したのかを詳細に読み解いています。この本は、歴史文化ライブラリーというシリーズで、歴史の専門書の中でも比較的読みやすいものですので、興味があればぜひ手にとってみてください。

次に、百姓たちの訴えがどの程度聞き入れられていたのか、というご質問ですが、当時の人々は、何か問題が生じると、願書を作成し、提出することを惜しみませんでした。ただし、江戸時代は今と違って、「身分制社会」でしたので、願書を作成すると、まずは庄屋さん(村の行政を管理する人)に署名をもらい、住んでいる村を管轄している役所に書類を提出することができるのです。少し面倒な手続きが必要でしたが、当時の人々は、自らの生活や生業を守るため、努力をしたのです。その願いは、聞き入れられることもあれば、そうでないときももちろんありました。何年もかかって争論になることもありました。歴史学研究者は、当時の人々の努力のおかげで(!?)たくさん古文書を見ることができるのです。

【岸本】

宮城県気仙沼市では、東日本大震災以前も、過去に津波の被害を受けた地域ですが、ここには「津波石碑」が数多くあるそうです。津波の被害を伝えたり、津波によって亡くなった方を弔うために建てられています。もし、Aさんがこのテーマをさらに深めたいと思ったら、例えば「気仙沼津波フィールドミュージアム」に問い合わせてみるのはいかがでしょうか。

Bさん

「京のジメジメ」

・京都の夏と言えば、蒸し暑く、気温も高く、夜でも過ごしにくいことと有名ですが、昔の人達はどのように乗り切っていたのかを貴族の日記などから調べます。十二単などは絶対暑かったと思うのですが、どうして着る文化ができたのかがとても気になります。研究するもの：記録(日記、手紙など)

「石碑の研究」

・鎌谷先生が講義中におっしゃっていたので、気になりました。私の家の近くにも石碑や記念碑がたくさんあるのですが、「誰が何のために」建てたのか、全然知らないで、それらを調べます。研究するもの：記録、古い地図

【鎌谷先生】

日本では古くから非常にたくさんの日記が記されました。とくに、江戸時代には武士・僧侶・商人・百姓、さまざまな立場の人々が書き残しています。江戸時代の日記には、二つの性格があります。一つは、プライベートな日記。そしてもう一つは業務日誌です。どちらの日記にも、天気のことわりと記されています。私の所属しているプロジェクトでは、日記に記された天気情報をもとに、当時の天気図や台風の進路などが解明されています。もともと、私の関心は、「当時の人々が天気について何を感じたのか」ということ。じつは、今わたしたちが日焼け対策にしている日傘は、関西で始まった習慣なんですよ。

次に、石碑のこと。石碑の研究は楽しいです。とくに、何が書いてあるのかを読み解くために拓本を取るの面白い。今度、拓本と一緒に取りに来ませんか。

【岸本】

京都の歴史、地理気候などを専門にしている大学の研究室や博物館を尋ねて資料を集めることから始めるのはどうでしょうか。「記録」はおそらく昔の言葉で書かれていて、専門知識がなければ解説不可能！っていうものもあるでしょうから、より詳しく研究されている方たちに協力や情報提供をお願いするといいですね。Bさんの祖父母も含め、近所のおじいちゃんやおばあちゃんにお話を聞くのもいいでしょう。

あと、「京都」といって、いろいろな地域がありますよね。京都の夏は確かに蒸し暑いのは全国的にもよく知られていますが、岩倉地区の場合、夏は涼しく、夜は冷房しなくても眠れるよと聞いたことがあります(私は今年の4月に岩

倉に引っ越しましたので、本当にそうなのか気になっていますが)。同じ京都の気候のあり方は、よくよく調べると、とっても多様なのかもしれません。

Cさん

「江戸時代の災害」

・江戸時代以降に起こった火災や地震についての史料を読み解き、その際の人々の様子やその後人々がどのようにして再建していったのかを調べる。そして、それを現代に生かすことはできないかを考える。

「環境政策」

・過去、日本や海外において人々は環境を守るためにどのような政策を講じてきたのかを調べる。そして、それがどのような時代において、どのような影響をもたらしてきたのかを調査し、現代に転用できるかを考える。

【鎌谷先生】

Aさんへのコメントにも書きましたように、災害についての史料は多く残されています。それらを読み解き、現代に生かす。それは、近年日本史研究者も同じ思いでいます。それと同時に、今活発に取り組まれているのは、近年の災害で被害にあった古文書の救出・保全作業です。研究者を中心に、一般の方が一緒になって、被災資料を救出する「歴史史料ネットワーク」が全国各地に設置されています。

歴史学は、「過去知るもの」ではなく「過去を知って今や未来に生かすためのもの」。私が伝えたかったメッセージがCさんにしっかりと伝わったようで、とても嬉しいです。

【岸本】

環境政策を講じるというのは、別の言い方をすると、環境が守られていない、破壊されていると信じられているからですね。では、Cさん、なぜ環境が壊されてきたと思いますか？

日本や世界のいろいろな地域で、だれが何をしてきたのか、政策のほかにも、環境破壊や汚染を象徴する事件や事故、環境に関連する会議や条約の締結、法律の制定、環境文学、映画、環境保護のスローガンなどをヒントにして歴史的に、丁寧に調べ上げていくと、環境を考えるヒントが見いだせるかもしれません。(実は、私は大学院生のときに、上に説明した項目を一覧表にして環境年表を作成し始めたことがあります。まだ完成していません!)日本の環境問題といえば、おそらく足尾銅山鉍毒事件や四大公害がよく知られているでしょうし、近年の場合ですと、福島第一原子力発電所の事故が挙げられるでしょうか。

Dさん

「自然災害に対してどのように家を守っていたのか」

・当時の建造物とそれよりも前の建造物との違いを探す。この違いが対策のひとつになっているか試してみる。

「銭湯はどこに建っていたか」

・昔の地図などを見て、だいたいどこが多いのか調べる。もしそれが住宅街なら木造の家をどのようにして燃えないようにしていたのか。腐らなかつたのか。

【鎌谷先生】

古民家については、建築史の分野で研究が進められています。災害対策が各民家でどのようになされていたのか。面白そうですね。例えば、水害の多い地域では、もしものために、屋根裏に脱出用に船を置いていたりすることはあったようです。時代によってどのような対策がされてきたのでしょうか。

近年の地震の以前と以後とでも、違いはありそうですね。

次に、銭湯の話。銭湯のルーツは、やはり江戸時代ですね。江戸時代には、都市を中心に風呂屋がありました。それらの様子は絵図が教えてくれます。これまでの研究はどちらかというと、江戸の風俗史や庶民の生活環境という視点で風呂を見てきたように思います。ですので、「防火対策」は新しい視点かもしれません。調べてみる価値はあると思います。

【岸本】

私は家というのは人間が安心して、快適に住めるような空間だと思っています。だから、Dさんの言うように、自然災害の多い日本で家を守ることに注目することは確かに重要。

ただ、実際に研究する前に気を付けなければならないことがあります。自然災害といっても様々です(地震、津波、台風、干ばつ、豪雪、安成所長の講義に登場した、地球温暖化…など)、さらに日本の地理気候は全国一様ではありませんから、対象とする自然災害の種類と地域をいくつか選んでみて、比較してみるなどすると、いろいろな人間の対応策や工夫が発見できて面白いかもしれません。

Eさん

「環境問題と言葉の歴史」

・鎌谷先生の講義では、「環境」という言葉が江戸時代にはなかったと聞いた。では、いつ生まれた言葉なのか気になった。そこで、「環境」だけでなく、ほかの環境問題に関わる言葉ができた時期や経緯を調べることで、いつからその言葉に関する問題が取り上げられていたのかを明らかにする。

「世界的な気候変動」

・日本と世界各国の昔の記録から世界的な気候変動があった時期を調べ、それに対する人々の反応や対策を調べる。そして、現在と比較し、取り入れられることはないか考察する。

【鎌谷先生】

「言葉になる」ということは「認識される」ということかと思っています。そういう意味で、いつその言葉が生まれたのかを調べることはとても意味があると思います。環境問題にかかわる言葉の原点を調べてみることもそのものが、環境研究になると思います。

次に、世界的な気候変動について。

今、世界では各地で気候復元の研究がおこなわれています。気候復元には、さまざまなプロキシが用いられています。例えば、木の年輪や、珊瑚、鍾乳石、古文書などです。多くの研究者による成果は集約され、世界の気候変動の詳細が次第にあきらかにされています。世界中の気候変動が激しかった17世紀の各国の状況を比較した本があります。GEOFFREY PARKERの『GLOBAL CRISIS』です。すべて英文なので、私は読むのに断念しましたが、英語に自信があれば読んでみてください。

【岸本】

(Eさんのひとつ目の研究アイデアは、Cさんの問題意識と関連性が高いと思いましたのでCさんへの私の回答を合わせて読んでくださいね。)

鎌谷先生の授業の中でも説明があったように、「環境」は本当に幅広い意味があり、言葉に含まれている内容も多種多様だと思いますし、自然、社会、システムとか、ほかの言葉に自由自在に言い換えることだって可能でしょうし…。またちょっと話が変わるかもしれませんが、私が訪れたことのある熊本県水俣市に暮らす村のおばあちゃんたちは、「環境」、あるいは「自然」という言葉を使わずに、水俣の「環境」、「自然」を過去の記憶を遡って詳細かつ丁寧に語ってくれたことがありました。

Fさん

「環境問題への意識」

・江戸時代は環境のことを考えた上で環境にやさしい生活を送っていたのではなく、より過ごしやすい環境や合理的な生活に近づけるために無駄を省くための知恵を実行していた。そこで、本当に環境問題を意識して環境にやさしい生活を送るようになったのは、いつ頃なのかを昔の文書を読んで調べる。

「江戸時代の自然災害」

・江戸時代に自然災害が起こったとき、人々はどこへ避難し、どのような避難生活を送って、街はどのように復興してゆくのかを古文書から読み取り、現在との違いを調べる。また、何種類の自然災害がどのあたりの地域で多かったのかを調べ、現在と比較する。

【鎌谷先生】

「環境問題」として、何かを意識することの始まりの原点を知ることは、難しいです。人間は、同じモノを見ても、その時の自身の考え方や気分、置かれている状況によって、違う見え方になることもありますよね。とはいえ、環境問題という観点で、多くの人が意識したのは、近代(明治)以降だと言えます。例えば、東北地域の人々が、毎年大量に降る雪を「雪害」、つまり災害だと認識したのは近代になってからだと言われています。環境問題への意識の変化について、興味深い本がありますので、ご紹介しておきますね。瀬戸口明久『害虫の誕生-虫からみた日本史』(ちくま書房 2009年)

【岸本】

「環境にやさしい生活」が推奨され始めたのには当然、何かきっかけがあるのではと推定されますね。Fさんが述べたように、昔の文書もヒントになりますが、Cさんの研究アイデアにあった「政策」、Eさんの研究アイデアに登場した「環境という言葉の誕生とその背景」も重要な手がかりになりそうです。

Fさんの言う通り、自然災害といっても様々ですから、まず自然災害の種類やタイプを事前設定しておくことは、重要な作業だと思います。さらに同じ地域で過去と現在を比較するか、現在の地域間で比較するかという方法も決定できるといいですね。

Gさん

「江戸時代の気候と現在の気候」

・古文書から江戸時代の人々の衣替えの時期や服装などを調べ、気候を推測し、現在の地球の温暖化の進行具合などを調べ、今後に役立ててゆく。

「江戸時代の天気予報」

・つばめが低く飛ぶと雨が降る前触れ、それから、夕焼けが見えると明日は晴れるなどの古風な天気予報を古文書から発見し、その予報を現在の科学で正しいかどうかなどを判断して調べる。

【鎌谷先生】

江戸時代の日記のうち、とくに武士や商人が記した日記には、服装や衣替えについての記述を見ることができます。ちなみに、歴史気候学の分野では、膨大な日記に記された桜の開花時期や微妙な天気記述を抜き出して、当時の気候を復元する研究がおこなわれています。

天気まつわる言い伝えや風習は、とても興味深いですね。私の研究している地域で年配の方にお話をうかがうと、「あの山に3回雪が積もったら、この集落にも雪が降る」と言っています。天気まつわる言い伝えは、古文書よりも、今を生きる年配の方々、とりわけ天気に左右される生業に従事している方々に聞き取り調査をおこなうと、多くの言い伝えをすることができると思います。大変面白いテーマだと思います。

【岸本】

まずはGさんにお詫びを。前回の「みんなの研究アイデアメモ 第2弾」で、お名前を誤って「奥野さん」と書いてしまいました。大変失礼しました。

ところで、天気のことわざは今でも言い伝えられていて、信じている人もいます。もしもGさん独自のお天気ことわざがあれば、それを科学的に分析するという研究も面白いかもしれません。ただ、科学が常に正しい答えを導いてくれる、とは限りませんのでご注意ください。

Hさん

「地震の被害とその対策」

・古来にも現在の東日本大震災や熊本の地震のような大地震が何度かあったというので、その前後のその地域周辺の書物を読み、現在の被害との相違点、共通点を見つけ出し、その被害からの復興の仕方、またそういった地震に人々がどのような対策をとっていたかを調べ、現在に活かせることを見つけ出す。

「感染症の流行と気候変動」

・過去に天然痘などといった感染症が大流行した時期があった。それは、気候変動と何か関係があるのではないかと予測した。そこで、感染症が流行した時期の気候、気象などを調べ、関係がないか調べる。もしなかったとしたら、一体何と因果関係があるのか、あるいは全くないのか調べる。

【鎌谷先生】

Aさん・Cさんのところでも書きましたように、重要なテーマだと思います。また、感染症についてですが、昔は気候の急な変化による飢饉の発生にともない、病気になる人が増えることもありました。気候変動との関係を調べてみると、きっと何か関係はあると私も思います。

ちなみに、飢饉が社会にもたらす影響については、菊地勇夫さんの膨大な研究があります。菊地さんのご本の中でも、比較的簡単に読める本をご紹介します。

菊池勇夫『飢饉-飢えと食の日本史』(集英社 2000年)

【岸本】

Hさんが述べたように感染症の流行には気候変動、言い換えてみると、地球温暖化に伴う、熱波、猛暑や寒波、豪雨の多発以外にも、様々な要因が絡んでいそうですね。人口の増加?不衛生な生活環境?人間の免疫力の低下?感染症を取り巻くあらゆる現象が環境の問題として関係していると思います。(対策についてはLさんへの私のコメントも是非読んでください。)

Iさん

「江戸と今日の農業」

・江戸時代に肥料として、人間の糞などを用いたというのは有名な話だが、それと現在使われている加工された肥料などと比べたとき、それぞれが環境に与える影響や植物の生長の速さの違いなどはあるのかを調べる。

「江戸のゴミ事情」

・現在はゴミを分別したり、リサイクルして、新しいものに変えたりするが、江戸時代にはどうしていたのか。普通ならポイ捨てなどをし、余計に環境が悪化しそうだと思う。

【鎌谷先生】

とても興味深いテーマです。江戸時代には、人糞以外に、魚肥(鰯や鰯などから作った肥料)があり、全国的に流通していました。農業をしている人

たちは、農業に関する本や情報を集め、どんな肥料を使えば、より多くの米が収穫できるかを考えながら、肥料を選択していました。また、住む環境に応じて、どの品種の米が適しているのかについても、当時の人々はずいぶんと研究を重ねていたようです。そうした様子は、各地に残る日記や、古文書から知ることができ、現在研究がすすめられています。

江戸時代は、税金の大半を米で提出しなければなりませんので、少しでも多くの米を収穫するため、当時の人々は努力をしていたのですね。

実は、ゴミの分別が始まったのは江戸時代のことです。大都市江戸では、大量にでるゴミを処理するために、収集日を町ごとにわけていたそうです。都市のゴミ問題は、害虫発生とも関わってきます。それについては、Fさんのところでご紹介した瀬戸口さんのご本を見てみてください。

【岸本】

Iさんの言う通り、昔の日本では人間の排泄物を畑の肥料に用いたことは確かに有名です。また、江戸で排出された尿尿を地方へ運ぶ職業もあったのです。ご存知でしたか？

アメリカのF.H.キング博士の旅とその記録が参考になると思うので紹介します。キング博士は東アジア各地の農村を旅し、農作業や農民の生活の様子を細かく記録していきました。ヒト・食・農業の循環が成立していたからこそ、アジアでは環境を疲弊させず、莫大な人口を支え続けることができたのだ。彼は当時、化学肥料に依存し、大規模農業を推進していたアメリカと比較して称賛の意を表しています。これは江戸時代ではなく明治時代、1909年頃のお話ですが、実際に本を開いてみると、特に難しいことは書いていません。白黒写真も豊富にあって、面白いと思いますよ。

F.H.キング(杉本俊朗訳)『東アジア四千年の永続農業—中国、朝鮮、日本』農山漁村文化協会、2009年。

Jさん

「江戸時代の気象の変化」

・江戸時代の気温や湿度、降水量などで現代のような異常気象があったのか。暮らしの中で気象条件はどのような影響があったか。現代との相違点はどんなところか。

「古文書の記録」

・古文書の記録から人々の生活を考察する。どのような場所に多く残されているか。家族構成や環境による変化から当時の人々について考える。

【鎌谷先生】

Jさんの注目しているテーマは、まさに私の所属しているプロジェクトが取り組んでいる研究の一つです。どのように解き明かされていくのか楽しみにしてもらえたらと思います。

古文書は、全国各地に残されていますが、残念ながら戦争で焼けてしまったものも多くあるので、少ない地域もあります。一般的には、江戸時代の古文書は、西日本に古いモノが多いと言われていています。なかでも、近畿地方には多くあり、私が研究している滋賀県は、「古文書の宝庫」です。私が何度人生を繰り返しても調べきれないくらい多くの古文書があります。

次に、江戸時代の家族構成についてですが、これは歴史人口学や家族社会学の分野で研究が進められています。もちろん、私の所属しているプロジェクトでも、家族構成・人口の変化と気候変動の関係性についての研究をおこなっています。

落合恵美子『徳川日本の家族と地域性—歴史人口学との対話—』(ミネルヴァ書房 2015年)は、近年の歴史人口学の研究成果が詰まった1冊です。興味がありましたら御覧ください。

【岸本】

どこで誰が古文書を記録したのかを考えるのは鋭いですね。また、古文書以外にも、家族や友人、あるいは恋人同士のやりとりが分かるお手紙や学校の勉強ノート、個人の日記などが発見され、それを読むと当時の様子がもっと鮮明にわかるかもしれませんね。

あるいは、江戸時代まで遡らなくても、Jさんのおじいちゃんやおばあちゃん、ひいおじいちゃん、ひいおばあちゃんなど、身近な人たちから過去の歴史や環境を探ることだってできますよ。

Kさん

「江戸の人々の一日と現代の人々の一日を比べてみよう！」

・江戸の一般的な暮らしをする人の一日と、現代人(成人)の一般的な一日を表に書き出す。→似ている点(あるいは変わっていないこと)や違う点を探す。→江戸時代から変わっていない習慣はなぜ現代まで残っているのか。逆に残っていない習慣はなぜなくなっていったのか。

「江戸時代の気候測定法」

・現代では、全国各地に設置された気象台やアメダス、また、宇宙からの雲の動きなどを観測する気象衛星によって気候を測定している。では、江戸時代ではどのような方法で気候を測定していたのか。現代における天気予報のようなものは存在していたのか。

【鎌谷先生】

江戸時代の人々と現代の人々の比較は面白いです。日々の生活だけではなく、一生涯をくらべてみるのも興味深いですね。最近では、博物館でもそうした内容の展示を見ることがよくあります。

さて、次に、江戸時代の気候の測定方法についてです。貞享元年(1684)、幕府は天文方という職を設置し、翌年には江戸牛込に、司天台(天体観測所)を設置しています。江戸時代は、今と違い月の満ち欠けで暦を決定していました。それを太陰太陽暦といいます。アメダスによる観測は、1974年の開始ですので、そこに至るまでには、ずいぶんと測定方法に変化はありますね。江戸時代は、近代的な測定法に至るまでの過渡期というか、「天体観測をする必要性」を国家が認識してその職を設置したということに意味があると思います。測定方法そのものについては、私もわからないので、ぜひ調べて教えてもらいたいです。

【岸本】

Kさんの「江戸の人々の一日と現代の人々の一日を比べてみよう！」というのは、良い発想ですね。ただ、一日だけだと生活のサイクルや習慣が分かりにくいのではないかと思います。せめて1週間、あるいは1か月は必要でしょうね。また、比較するときには、Kさんと同じ性別や年齢の人と比べてみるのはどうでしょうか。

Lさん

「現代の環境対策と江戸時代の環境対策の違い」

・現代の環境問題と江戸時代の環境問題には、社会や科学技術の発展に伴い、問題自体の違いが生まれていると思うが、共通する部分は前の時代にあった災害やそれに対する対策などから今の対策を改善することや後手に回らず対策したりすることができると思う。

「飢饉への対策と対応」

・江戸時代にも天候や気温によって飢饉が起こっていたと思う。前回の講演では、土地によってコメが取れないという古文書を見たので飢饉が発生しているときの対応や死者を減らすための対応を古文書から探す。

【鎌谷先生】

江戸時代には、享保・天明・天保の三大飢饉をはじめ、多くの飢饉が発生しました。その原因は、冷害・早魃という自然現象だけでなく、都市への米の売却など人為的な理由もありました。また、猪などの獣類被害といった地域限定の飢饉も発生していました。飢饉への対応策は、幕府つまり国家レベルの救済や領主による対策もありましたが、それ以外には地域社会での取り組みもありました。例えば、米を村の蔵に備蓄しておき、来るべき災害に備えるという対策もおこなわれていました。

災害に当時の人々がいかにして備えたのか、それに至る考えや行動を詳細に見てみると、今の社会でも活かせるヒントがきっとあると思います。

【岸本】

Lさんは災害や環境への対応や対策に関する研究に興味があるようですね。ただ、対応、対策と言っても、国家レベル、地域レベル、家庭レベル、個人レベルなど様々。段階別にみても、予防策、順応策、転換策などこれまた色々。実際に研究するときは、対策の規模や段階を頭の中でしっかり区別するとよいでしょう。また、対応や対策の内容も本当にいろいろあると思いますが、成功した例だけではなくて、失敗した例と同時にそれはなぜなのか、その要因も明らかにできるといいですね。

Mさん

「江戸時代のおばあちゃんの知恵袋」

・現代でも、日常生活の中でおばあちゃんの知恵が活かしている。江戸時代特有の生活の知恵を具体的に調べる。また、江戸時代から現在まで受け継がれている歴史の長い生活の知恵はあるのだろうか。方法：江戸時代を経験している方のお話を聞く。

・

「江戸時代に予言者はいたのだろうか」

・江戸時代も現代と同様、天災を恐れていたはずである。現代は技術進歩により規模などは予測できるようになった。また、ネット予言などの根拠のない書き込みに反応する人達もいる。それでは、江戸時代に予言者と名乗る者はいたのだろうか。そして、周りの人々のそれに対する反応はどうだったのか。方法：古文書

【鎌谷先生】

おばあちゃんの知恵袋は、生きていくためのお手本ですよ。残念ながら、江戸時代に生きていた人は、もういないので、高齢の方が昔おばあちゃんやひいおばあちゃんから聞いた「知恵」を聞き取りしてみると、江戸時代の「知恵」を知ることがきっとできるのではと思います。私もよく聞き取り調査をしているのですが、勉強になることがとても多いです。

江戸時代にも予言者というか…占い師や、民間宗教者はいました。私が過去に読んだ古文書では、村に不思議な予言者がいて、多くの人その人を信じてお金を払って占いをしてもらい、あとで大きなめ事になっていることもありました。天災を予想していた人がいたのかどうかは、わかりません。でも、いたかもしれませんね！調べてみると面白いですね。

【岸本】

確かに、おばあちゃんの生活の知恵は「なるほど！」と思ってしまうものが多いですね。Mさんはおばあちゃんからどんな知恵を聞いたことがありますか？（私はおばあちゃんから、「緑茶の茶葉のカス、もしくは、使い終わったコーヒーの粉は消臭効果があるから、トイレに置いといたらいいよ」と教えられました）

もし、江戸時代からおばあちゃんの生活の知恵が継承されているとしたら、それは何かのほかに、「なぜ長い年月をかけて語り継がれているのか」も合わせて研究してみてくださいね。さらに、知恵袋といえば、おばあちゃん！といった感じですが、「お父さんの知恵袋」や「おじいちゃんの知恵袋」というのがもし昔あったら、一体どんな知恵なのか、気になりますね。

Nさん

「さまざまな古文書」

・江戸時代にはほとんどの事柄が古文書として残されている。鎌谷先生の授業で学んだ農村の減税のお願い以外にも、当時の流行を書いたものや当時の成功者の自伝など、現在の歴史に残されているものよりもっと詳しく、歴史をより鮮明に紐解いていけるものがあると思う。

「江戸時代の生活」

・日記も古文書として残されているはずだ。それを読むことで、江戸時代の人々としての生活ではなく、個人の生活を私たちに身近な時間のサイクルで比べることができると思う。

【鎌谷先生】

今回私が授業でご紹介した古文書以外にも、もちろんいろいろな分野の古文書があります。自伝や物語などの読み物も多くあります。読むと楽しいものばかり。一緒に読んでみませんか。

江戸時代の日記は、とても興味深いです。先にも書きましたが、江戸時代の日記には、プライベートなものと業務日誌があります。現在私は業務日誌を読みながら、江戸時代の地域社会の自治や領主と一般庶民との日常的な関係について分析をしています。また、寺院の日記の気候関係記述の分析もおこなっています。日記は、長期間残っているものがあれば、研究素材としての価値も高いです。日記を使って研究をしてみませんか？おすすめの日記はたくさんありますよ。

【岸本】

Nさんは江戸時代に生きたある特定の人物に焦点を当て、個人史を調べてみて、「私たちに身近な時間のサイクルで比べる」ことで、何を明らかにできる(あるいは、したい)と思ったのでしょうか？あともう一步踏み込んで、研究アイデアを膨らませてみてください。

Oさん

「江戸における人口増加」

・徳川家康が幕府を江戸に置いてからその人口は急激に増加したと思う。その規模は現在の大都市の人口増加とは比べものにならないものであろうが、当時の江戸にとっては未知の領域だったはずだ。そのとき、幕府はどのような対策をとったのか、古文書などから読み解きたい。

「江戸における衛生管理」

・江戸ではゴミ処理や水道管理などが、今ほどの技術力がないにもかかわらず、非常に優れていたと思う。これは発展途上国や未開発の地域にとって環境を汚染することなく発展を目指すための良い資料になるのではないだろうか。そこで、江戸の衛生管理のシステムを詳しく追及したいと思う。

【鎌谷先生】

江戸時代の人口については、歴史人口学の分野でかなり詳細に研究が進められています。江戸時代の人口は、幕府は6年に1回全国調査をしていましたので、およその人数はあきらかにされています。江戸時代の中頃の人口は、およそ3000万人だと言われています。ただし江戸時代は、約260年間ありましたので、人口が多い時期とそうでない時期も当然ありました。一般的には、初期と幕末に人口は急増したと言われています。歴史人口学の研究については、先にJさんにご紹介した本がおすすすめです。御覧ください。

次に、江戸の衛生管理システムについてです。近年、環境問題が注目されていますので、良い研究テーマだと思います。水道管理やゴミ問題については、いくつか研究もありますが、技術力にや技法については、歴史学の方

では、あまり注目していないように思います。そういう意味で、新しい視点かと思しますので、考察してもらえればと思います。

【岸本】

Oさんの第2番目の研究アイデアですが、私も関心があります。ところで、Oさんは「適正技術」(appropriate technology)という言葉をご存知ですか？

『三省堂 大辞林』で調べてみますと、適正技術とは、「環境への影響、生産施設、技術の現状、労働力、市場規模、文化的・社会的環境など関連するすべての面から、開発のための技術的ニーズを満たすうえで最も適切な技術をいう。」と書かれてありました。何やら長ったらしい説明ですが、私は、それぞれの地域や地域の人々のニーズに適した技術を開発するという概念だと理解しています。

技術は単に最新のもので技術力が高いという要件を満たしていればよいのではなく、実際にその技術を使ったり、その技術から恩恵を受ける人たちの気持ちや生活をしっかりと理解する必要がありますから、「適正技術」は奥深い言葉だと思います。私が前に勤めていた大阪大学の大学院生たちはバングラデシュに短期滞在して、農民たちと話し合っって農作業の負担軽減と米の収穫量の増加につながるための農機具の開発を行っていましたよ。今も継続中だと思います。

Pさん

「江戸時代の食文化」

・「和食」が無形文化遺産に登録されたが、寿司やそば、うどん、てんぷらなど江戸時代に生まれたであろう食べ物はどれくらいの時期に、どのような人々によって、どのような経緯で生み出したのか。古文書を読み取ったりして調べたいと思った。

「民衆の娯楽」

・江戸時代、武士や商人の生活を支えていた百姓。彼らはこの時代、どのような娯楽を楽しんでいたのか？今に通ずる娯楽があったのか、調べてみたい。研究方法は、古文書の解読や遺跡調査(?)など。

【鎌谷先生】

江戸の食文化は、今の日本の食のルーツだと思います。テイクアウトの食べ物や、味付け、保存の知恵など、その多くは江戸時代に始まりました。江戸時代には多くの出版物がありますが、料理本も多くあります。それを読み解いていくと、多くの発見があるかもしれません。興味深いテーマです。面白い料理本を今度ご紹介しますね。

百姓の娯楽。もちろんありました。今の私たちから見れば、「そんなの楽しいの?」と思えることも、テレビやインターネットの無い江戸時代には、立派な娯楽でした。村では、芝居興行や相撲、花見や、日帰り観光などの娯楽がありました。実は、私の昔の研究テーマは「江戸時代の日帰り観光と花見」でした(笑)。調査方法、教えたいです。一緒に調査にいきましょう。

【岸本】

Pさんが提案してくれた2つのテーマの研究手法として、古文書の解読、遺跡調査のほかに、研究室や博物館の訪問が考えられます。実は去年の夏にフランス人の友達が東京に旅行に来ていて、そのときに両国国技館の隣にある「江戸東京博物館」(<https://www.edo-tokyo-museum.or.jp/>)に行ってきました。江戸の食事、お寿司の展示コーナーや娯楽コーナーもありましたよ。図書館もあるようでした。(東京まで行く時間や費用もない場合は、上記ウェブサイトアクセスしてみたり、問い合わせしてみるといいかもしれませんね。)



鎌谷先生、ありがとうございました！

**次号は6月9日ごろ発行予定です。
お楽しみに！**

